

ふくいっ子



太陽のように
温かい心を持ち
地域で明るく輝き
家族の絆を深める子

編集・発行 一般社団法人 福井県子ども会育成連合会
〒918-8135 福井県福井市下六条町14-1「福井県生活学習館内」
TEL (0776)41-3908 FAX (0776)41-3916
ホームページ <http://www.kodomo-kai.or.jp/fukui/>

F K G K ふるさと愛・壁新聞・元気・子ども会 ウツ! FKGK

第40回 壁新聞コンクール 特別賞

知事賞 南越前町稲荷区子ども会



「いなり道しるべ新聞」

福井県教育委員会賞 南越前町荒目区子ども会



「あらめっ子ふれあい新聞」

福井県議会議長賞

越前市京町子ども会



「歴史のある町 京町新聞」

壁新聞講習会
(越前市子連)



東海北陸地区子ども会
「ジュニア・リーダー研修福井大会」
に参加しよう!

平成29年
8月11日(金・祝)～13日(日)

in 福井県立芦原青年の家

(テーマ)

RPG(ロールプレイングゲーム)

～ 協力・挑戦・成長 ～

INDEX

- P2 福井県子ども会育成研究大会
全子連「体験の風をおこそう推進月間事業」
壁新聞展示会感想
- P3 越前市・南越地区子ども会育成研究大会
嶺南地区子ども会育成研究大会
奥越高志地区子ども会育成研究大会
福井地区子ども会育成研究大会
- P4 坂井地区ディスコドッジ交歓大会
福井地区子どもまつり
鯖丹地区育成懇談会
嶺南地区育成懇談会
- P5 栄光の表彰
東海北陸地区子ども会育成研究協議会
全国子ども会中央会議・研究大会
全国子ども会安全共済会に加入を!
- P6 壁新聞コンクール

平成29年度に

福井県子連「設立50周年」を迎える!
50周年記念事業 記念式典・記念講演・記念誌発行等予定

第10回 福井県子ども会育成研究大会

約150名 参加!

12月4日(日) in 県生活学習館(ユ一・アイふくい)

(テーマ) 子ども会は人づくり・絆づくり・地域づくり
～親力・地域力を高めるために～

表彰式後、「社会教育の重要性と子ども会の果たす役割」をテーマに、佐藤美紀代氏(県教育委員会生涯学習・文化財課主任)による基調講演を行っていただき、子ども会活動の原点である「地域に根ざした活動」の重要性を再確認しました。

ワークショップでは、「これからの子ども会のあり方」について、各市町子連の現状や課題など、今回はジュニア・リーダーの参加もあり、県ユース・リーダーや育成者が大いに語り合う有意義な大会となりました。



全子連

「体験の風をおこそう推進月間事業」

マンドリンの生オーケストラといっしょに音楽しようよ! in Fukui

11月27日(日)

in 福井市大土呂「文寿殿」

福井市Cブロックの子どもたちのつながりを図ろうと、親子での「体験型コンサート」を開催しました。

第1部はマンドリンのコンサート。マンドリンの音色を聞くのが初めてという子もいて目を輝かせていました。第2部では自分たちで手作りの楽器を作り、第3部ではその楽器を使って演奏をしました。

一日がかりのイベントでしたが、親子で楽しい時間を過ごすことができました。



96名 参加!

第40回 壁新聞コンクール 入賞作品展示

平成29年1月25日(水)～2月1日(水)

(会場) 福井新聞社「風の森ギャラリー」

(作品) 入賞全作品展示(101点)

平成29年2月3日(金)～2月21日(火)

(会場) 福井県生活学習館「情報ルーム」

(作品) 入賞(特別賞・最優秀賞)展示(21点)

感想

- 子どもたちの熱心な取組で、どれを見ても心が打たれました。新聞では見られない地域のこと、情報など楽しく拝見。構図も上手です。こんな壁新聞を作ってくれた子どもたちに感謝します。
- レイアウト、内容がさまざまで、見ててあきないですね。町の探検あり、発見あり、インタビューありと、賞は関係なく楽しんで読みました。
- 子どもなりに地域を調べたり、歩いたり大変だったでしょう。地域を見直す良い機会となりましたね。



越前市・南越地区 子ども会育成研究大会

(越前市子連)

11月27日(日) in 越前市岡本公民館 **129名参加!**

(講演) 腹話術で学ぶ人権

(講師) はやおき亭 貞九郎

「越前市・南越地区子ども会表彰」と「県子ども会壁新聞コンクールの表彰」を行った後、講演会を実施しました。

今年の講演は、はやおき亭 貞九郎さん(福井市在住のパン屋さんで落語をされている方)による「腹話術で学ぶ人権」という少し難しい演題でしたが、子どもたちも楽しんで聞いていました。



平成28年度 福井県子ども会
越前市・南越地区育成研究大会



嶺南地区 子ども会育成研究大会

(美浜町子連)

11月23日(水・祝) in 美浜町生涯学習センターなびあす

(講演) 奇跡の命をつないでいく子ども達と育む大人 **234名参加!**

(講師) 助産婦 内田 美智子 先生

役場正庁で壁新聞等の表彰を行った後、会場を「なびあす」に移して、助産師の内田美智子氏による講演会を開催しました。

講演では、内田先生のお話やスライドによって、親としての気持ちをあらためて思い出し、子どもを愛しく思う気持ちを再確認することができました。また、参加者の中には、涙する方も見られ、参加者の心に深く響くものとなりました。



奥越・高志地区 子ども会育成研究大会

(永平寺町子連)

9月18日(日) in 上志比文化会館サンサンホール

(テーマ) わがまちのジュニア・リーダーを育てよう
～ 地元のジュニア・リーダー育成と定着をめざして ～

26名参加!

シンポジウム形式で、「ジュニア・リーダーの育成」について考えました。コーディネーターは県子連田中理事、パネラーは県ユース・リーダーの4名で、ジュニア・リーダー活動の楽しさ、活動の課題について教えていただきました。その後、シンポジウムの内容をふまえてワークショップを行い、参加者全員で語りました。

ジュニア・リーダーは子ども会活動の大きな柱です。各団体において、ジュニア・リーダー活動が元気になっていくことを願っています。



福井地区 子ども会育成研究大会

(福井市子連)

9月24日(土) in 福井県国際交流会館 **180名参加!**

(講演) いまどきの子を本気に変える

(講師) 飯山 昶朗 氏

メンタルトレーニング講座Part.2

今回も、前回をしのぐ参加者が会場に詰めかけ、熱心にメモを取り、質疑応答の時間には、次々と多くの方々が手を挙げて質問を行いました。

アンケートには、Part.3の開催の要望が多数あり、今後も継続的な開催を検討することになりました。これからも、子どもたちにかかわる多くの方々の参考になる「育成研究大会」を目指していきます。



ディスクドッジ交歓大会

(坂井地区子ども会)

約350名
参加!

12月11日(日) in 坂井市丸岡体育館

坂井市・あわら市を勝ち抜いてきた精鋭20チームがディスクドッジに汗を流しました。

低学年の部は1年生～4年生、高学年の部は5年生～6年生で実施しました。男女の区別なく楽しめるのがディスクドッジの特徴であり、女の子が男の子をアウトにしたり、低学年の子たちも大活躍していたりと、練習の成果がうかがえ、子どもたちの元気な姿を確認することができました。



福井地区子どもまつり

(福井市子ども大会)

約150名
参加!

11月13日(日) in 福井市北体育館

(テーマ) みんなであそぼう!! 「新聞ドームづくり」

この大会は、「地区子ども会間の交流」・「地区子ども会活動発表の場」を目的とし、子どもスタッフと市のシニアやジュニア・リーダーたちが中心となって毎年、開催しています。

今回の大会は、「福井市・結城市友好都市こども親善大使交流事業」に参加した子どもたちによる体験発表や、「地区別対抗のドッジビー大会」、福井市ジュニア・リーダーによる「レクリエーション」、最後に参加者全員で「巨大新聞ドームの作成」を行いました。



終始、体育館内に子どもたちの笑顔や歓声が溢れるなど、大変盛り上がりしました。



鯖江・丹生地区 育成懇談会

(越前町「織田地区」)

20名
参加!

9月14日(水) in 織田町コミュニティセンター

合併後、初めて織田地区での「育成懇談会」を実施しました。少子化により子ども会活動ができなくなってきたという意見がある中、近隣の地域と一緒に「できる行事」を行っているという声もありました。

今後は、他地区での懇談会も行い、地区役員の方々の意見も取り入れながら「地域で子どもを育てる」ことを中心に活動していきたいと思います。



嶺南地区 育成懇談会

(敦賀市子連)

35名
参加!

10月19日(水) in 敦賀市「中郷公民館」

中郷地区の単位子ども会の役員の方々も参加して、県子連会長の挨拶、総務委員長の趣旨説明の後、懇談会を行いました。人数が多かったため3班に分かれて実施しました。テーマを決めず順番に話をしながら進めていく班もあり、さまざまな話題が出ました。

一番印象に残ったことは、「聞いてもらえてよかった。」と言われたことです。「助言」より「黙って聞く」ことが大事なこともあるのだと感じ、現状を知るには「情報の共有」が必須だと思いました。



おめでとう栄光の表彰

《全国子ども会連合会表彰》

・個人の部（指導者、育成者）

井上 満枝 福井市

松田 輝治 大野市

団体の部（子ども会およびジュニア・リーダー組織）

すずしろ子ども会 小浜市

団体の部（指導者および育成者組織）

芝原一丁目子ども会 越前市

《東海北陸地区子ども会連絡協議会表彰》

岸本 正 敦賀市

谷川 孝美 小浜市

齊藤 雅一 大野市

佐々木 賢一 鯖江市

中村 賢一 小浜市

《福井県子ども会育成連合会表彰》

個人の部

堀田 裕幸 福井市

宮内 潤子 福井市

小川 隆明 敦賀市

西村 義信 大野市

酒井 芳子 大野市

木村 愛子 鯖江市

団体の部

順化ジュニアリーダーズクラブ 福井市

東勢子ども会 小浜市

中荒井1丁目子ども会育成会 大野市

陽明町2丁目育成会 大野市

元町2丁目子ども会育成会 勝山市

浜地子ども会 坂井市

木部東子ども会 坂井市

ジュニア・リーダー活動奨励賞

寺下 花音 福井市

杉本 大翔 福井市

山神 憂樺 福井市

吉田 伊織 福井市

三村 誠 福井市

奥村 晴友 敦賀市

菊池 友斗 敦賀市

松田 菜々子 敦賀市

木戸 倉子 敦賀市

三上 美帆 小浜市

渡辺 帆南 大野市

中村 菜々子 鯖江市

小林 菜々子 小浜市

竹内 菜々子 敦賀市

白川 菜々子 敦賀市

山崎 菜々子 敦賀市

崎川 菜々子 敦賀市

航輝 菜々子 敦賀市

輝教 菜々子 敦賀市

《福井県教育委員会表彰（青少年地域活動奨励賞）》

辻本 凛 福井市

友兼 莉緒 福井市

伊吹 七海 敦賀市

松野 朋夏 敦賀市

熊谷 七海 敦賀市

松岡 風花 敦賀市

西村 風花 敦賀市

若野 風花 敦賀市

濱野 風花 敦賀市

柿本 菜奈 敦賀市

《善行青少年および青少年育成功労者知事表彰》

個人の部

山口 祐司 あわら市

団体の部

おおい町ジュニアリーダーズクラブ おおい町

《児童福祉関係者団体知事表彰（優良子ども会）》

南地区子ども会育成連合会 敦賀市

全国子ども会育成中央会議・研究大会

第50回

平成29年2月17日（金）～19日（日） in 福岡県「久留米シティプラザ」

10名 参加!



表彰者（左から）
井上さん
松田さんご夫妻

平成28年度

東海北陸地区子ども会育成研究協議会

平成28年10月1日（土）～2日（日） in 石川県「加賀市文化会館」

（テーマ）各世代が支える子ども会

23名 参加!



表彰者（左から）
中村さん
岸本さん
佐々木さん

ふくいっ子編集委員

柏谷 敏晴・伊藤 稔祐・坂田 裕幸
齊藤 立海・松田 輝治・各務 靖久
幸道江美子・児玉 和人・飯田由紀恵
塚谷津弥子・笹島 康正・山口 和代

編集後記

壁新聞を制作する子ども会が減少傾向
とのこと！将来の地域を担う子どもたち
の郷土愛はいつ育まれるのか。わが町を
いつ知るのか。郷土愛のない子どもたち
大人になったらどうなるのか。一度真剣に
考えてみてはどうでしょうか。

全国子ども会安全共済会に加入しましょう!!

子ども会活動を安心して行うために、「子ども会安全共済会」
に加入することも忘れずに!!（子ども会にかかわる人は、0才～大人まで
入れる共済です。）

1人年額払込金
230円

安全共済会	死亡	600万円	事故発生日より180日以内に死亡した場合
	障害遺	7万円～600万円	（後遺障害等級表による）
	疾病	保険医療費総額の30%	【治療期間は180日を限度とする】
	病傷	総額50万円を支給限度とする。	※注 保険医療機関に限定します
賠償責任保険	対人	1事故 5億円を限度 / 1名 1億円	自己負担額 なし
	対物	1事故 200万円を限度	1事故 自己負担額 1,000円

支払事例
（安全共済会）

- スケート中、ゆっくりと止まろうとしたところ、バランスを崩し転んで頭と顔を打った。
 - ラジオ体操中、蜂に喉を刺された。
 - お祭りのお神輿巡業中に転倒し、落ちていた画紙が膝に刺さった。
- （賠償責任保険）
- 町内の通学路の草刈り中、石が飛んで観光バスの窓ガラスを破損させた。
 - 資源回収中リヤカーが、停まっていた第三者の車のバンパーに当たり破損させた。
- ※賠償責任保険の支払の有無等は、保険会社が判断します。

福井新聞社長賞 坂井市池見子ども会



「池見災害0(ゼロ)新聞」

福井テレビ社長賞 越前市高瀬町子ども会



「高瀬町ニュース」

福井県子連会長賞 福井市円山子ども会育成会



「円山子ども記者新聞」

優秀賞 勝山市三室子ども会

【低学年の部】



「みむ六子新聞」

優秀賞

勝山市三室子ども会

【低学年の部】



「にこにこ新聞」

地域と成長した子どもたち
子ども会壁新聞コンクールを審査して

福井新聞社 編集局メディア整理部

部長 田中 禎浩

どの作品を見ても、子どもたちが意見を出し合い、楽しみながら作品づくりに取り組んでいる姿が目に見えます。作品レベルの高さに驚き、子どもたちの思いが伝わってくることに感激しました。初めて体験させてもらった県子ども会壁新聞コンクールの審査は、とても難しい仕事でした。

地元のことを取り上げた作品が多くありましたが、それは、レベルの向上と密接に関係している気がします。自分たちの地域を慈しみ、誇りを持つ。作品づくりを通じて子どもたちは自然に、そういう成長をしたのではないのでしょうか。だからこそ知恵が出てくるし、思いが伝わる紙面になると考えました。

(身近にある大事なことについて、読む人に何を伝えよう。どうしたらしっかり伝わるだろうか。例えば写真の使い方はどうだろう。自分たちの顔写真を載せるのも、読者との距離を縮める効果がある。一方で、きれいな地元の風景を大きく見せてもいいし、そこに地域の人の営みを写し込めたらもっとすてきになるだろう。)

このように、「伝える」ことについて、わいわいがやがや、みんなにぎやかに意見を出し合ってみましょう。新聞は黙々とつくるのではなく、楽しんで創り上げた方がいいのです。